



休眠預金活用事業

社会的養護アフターケア新型コロナ支援助成

シェアハウスを利用した若者に対する アンケート・インタビュー調査レポート

2023年3月

特定非営利活動法人 サンカクシャ

1. 調査の背景

特定非営利活動法人サンカクシャは、休眠預金事業を活用し、社会的所属がせい弱な若者に対して住まい・生活環境を提供する取り組みを行ってきた。

若者に対する生活支援の重要性は、社会の中で徐々に認識が高まってきているものの、社会インフラとしての整備はまだ不十分である。

それゆえに、生活支援を通じて若者にどのような価値を提供できるのか、それにより若者がどのように変化するのかといった支援の効果や、民間の支援機関に繋がってくる若者の実態は明確になっていないのが実情である。

2. 調査の目的

本調査の目的は以下の4点である。

①サンカクシャの生活支援を利用している受益者像の明確化

困難に直面する若者を支援する社会資源は過去と比較して増加している一方で、それらの社会資源につながる事が出来ず孤立してしまう若者が一定数存在する。サンカクシャの生活支援には、そういった既存の支援ネットワークにつながる事が出来なかった若者が一定数含まれていると考えられることから、調査を通じてそういった若者の実像を明らかにする。

②生活支援が受益者に提供している価値

取り組みを通じて、若者が受け取っている価値は何かを明らかにする。そのうえで、既存の社会資源とサンカクシャの生活支援とで提供価値にどのような違いがあるかを考察する。

③生活支援を提供していく上で必要な機能

上記の価値を提供していく上で必要な機能を整理する。具体的には施設等のハード面、サービス等のソフト面の両面からアプローチする。

④生活支援を社会の中に広めていく上での課題の提示

①～③について調査検討を行った上で、生活支援が困難を抱え社会で孤立している若者にとって必要な取り組みであると考えられる場合は、同様の取り組みを社会に広めていくためにどのような取り組みが必要かを考察する。

3. 調査方法

調査にあたってはウェブアンケート調査とインタビュー調査を実施した。

アンケート調査は利用者に支援者が同席の上で回答してもらう形で実施した。ただし、支援者による回答者への働きかけについては、設問文の意味がわからない場合など、回答者からリクエストがあった場合に対応するなど、最小限に留めた。

また、インタビュー調査については、アンケート調査回答内容が特徴的だった回答者として、男女各3～5名に対して実施した。（調査実施時期：2023年1月～2月）

①アンケート調査項目

アンケート調査の回答項目は下記の通りである。

- 氏名
- 年齢
- 出身地（都道府県）
- 最終学歴
- 職歴
- サンカクシャの生活支援を利用している期間（月ベース）
- サンカクシャの生活支援の満足度
- サンカクシャの生活支援で満足していること（自由回答）
- サンカクシャの生活支援で改善してほしいこと（自由回答）
- サンカクシャと繋がる前に利用したことのある支援・サービス
- 今の生活で悩んでいること（MAおよび最も困っていること）

②インタビュー調査項目

- 生き立ち
 - 家庭環境
 - 教育との繋がり
 - 就労状況
 - 他者との繋がり
- サンカクシャに繋がる前の支援
 - 困り経験とその時の対処エピソード
 - これまでどんなサポートを受けてきたか
 - NPOなどの民間事業者の支援・サービス利用歴
 - 行政サービスの利用歴
 - 各種支援・サービスの認知状況
 - サンカクシャと繋がる以前に、民間の支援・サービスがあることを知っていたか
 - 同、行政サービスがあることを知っていたか
 - （知っているとは回答した場合）知っていたにもかかわらず利用しなかった理由は何か
 - （知っているとは回答した場合）知った経緯はなにか
- サンカクシャの生活支援について
 - どのような経緯で支援を知ったのか
 - 利用することの決め手はなんだったのか
 - 利用してみての感想（印象的なエピソード）
 - 満足しているところ、改善点（アンケートで記載されたことの深堀）
 - 生活する中でできるようになったこと、わかったこと

- 生活支援以外で繋がっているサンカクシャの活動
- 支援者をどう見ているか
 - 生活支援で関わるスタッフの位置づけ、どのように捉えているか
 - どういう存在なのか
- サンカクシャ以外で繋がっている場所
- 今後の展望
 - 今後どのような生活をしていきたいか
 - どのようなことをしたいか（就労その他の面で）
 - どういう支援を望むか（制度の改善点）

4. 調査結果

【アンケート調査】

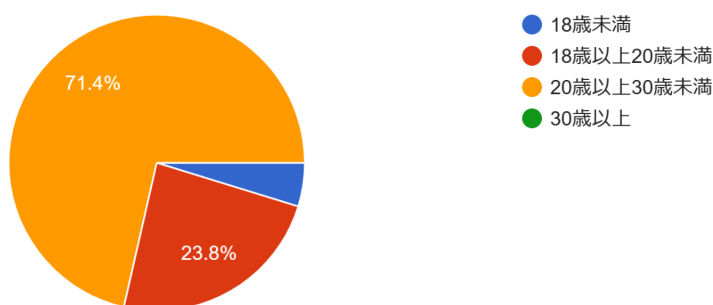
アンケート調査には21名からの回答を得た。回答結果は下記の通りである。

①回答者の年齢

回答者の約71%が20歳代、次いで18・19歳が約24%であった。宿泊支援を含む生活支援の性質上、未成年の利用は少ないことがうかがわれる。現場の感覚としても最近では10代よりも20代の入居相談が多く、それを裏付ける回答結果となっている。

あなたの年齢として当てはまるものを一つお選びください。

21件の回答



②回答者の性別

約86%が男性であり、女性は約10%であった。サンカクシャでは男性用のシェアハウスの設置を進めてきた経緯もあり、居住者に占める男性の割合が高くなっていることが背景にある。

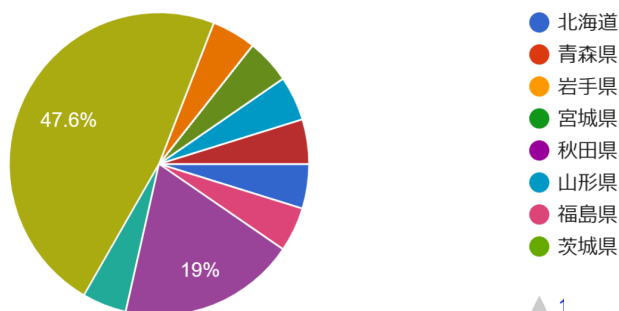
③回答者の出身地

出身地として最も多いのが東京都（約48%）、次いで多いのが埼玉県（約19%）であった。その他、北海道、新潟県、福島県、千葉県、兵庫県、香川県、福岡県出身者も含まれている。

サンカクシャの主な活動エリアが東京都区部北部であることが、東京都および埼玉県出身者の多さの背景にあると考えられる。

あなたの出身地（都道府県）をお選びください

21件の回答



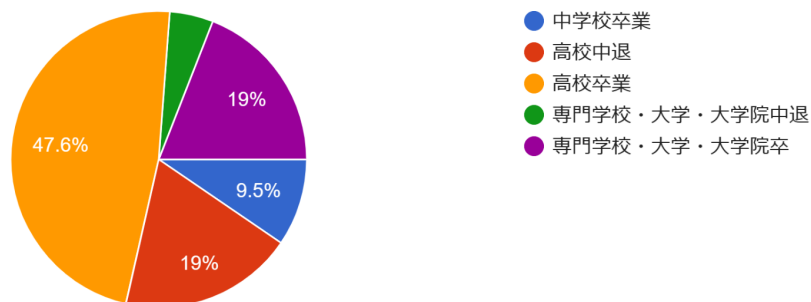
▲ 1

④最終学歴

回答者の約48%の最終学歴が高校卒業（大学在学中含む）であった。次いで高校中退と専門学校・大学・大学院卒がそれぞれ約19%であった。また、最終学歴が中学校と回答した若者が約10%であった。

あなたの最終学歴としてあてはまるものを一つお選びください

21件の回答



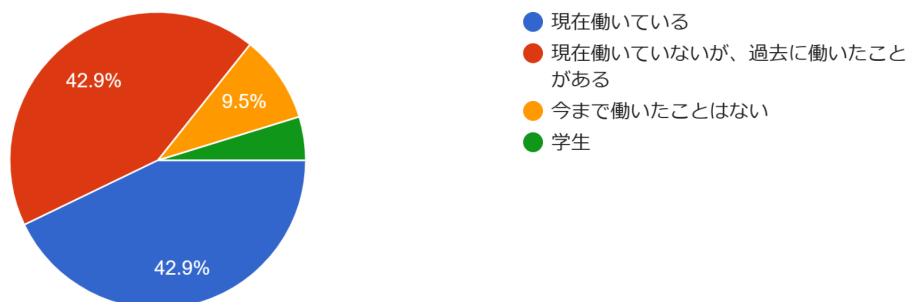
⑤就労経験

回答者の約43%が現在働いていると回答している。また、現在働いていないが過去に働いていたことがある、と回答した若者も約43%となっている。その他、過去に働いたことが無いと回答した若者も約10%いた。

なお、現在働いていないと回答した若者の中には、生活保護受給者が一定数いるほか、アルバイト探し中や病気で働けない若者なども含まれている。

現在のお仕事についてお聞きします。現在の状況にあてはまるものを一つお選びください

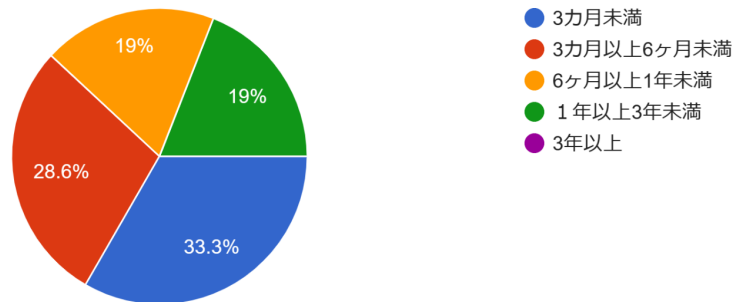
21件の回答



⑥シェアハウス入居期間

サンカクシャが運営するシェアハウスの入居期間として最も回答が多かったのは「3ヵ月未満（約33%）、次いで「3ヵ月以上6ヵ月未満」「6ヵ月以上1年未満」「1年以上3年未満」がそれぞれ19%であった。入居者の平均的な入居期間は約半年程度であり、近年は生活保護受給者が増えてきたこともあり、滞在期間は減少傾向にある。

サンカクシャのシェアハウスに入居してから現在までの期間として当てはまるものをお選びください
21件の回答

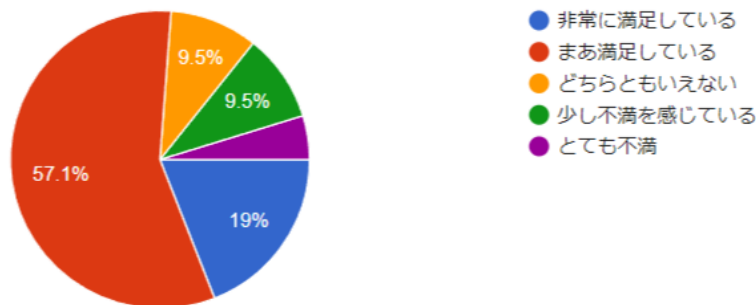


⑦シェアハウスでの満足度

回答者の約76%は「非常に満足している」「まあ満足している」と回答した。一方で約14%の回答者が「少し不満を感じている」「とても不満」と回答している。

サンカクシャのシェアハウスでの生活に満足していますか/していましたか。あなたの気持ちに最も近いものを一つお選びください。

21件の回答



満足している理由としては、シェアハウスの施設が整っていること、食事が提供されること、スタッフの対応などが挙げられた。一方で、不満の理由としては、部屋が相部屋であることに起因する同居者との関係性や、それぞれの居住者の生活スタイルや価値観の相違による衝突などが挙げられるなど、自分が寝起きする空間を他者と共有していることに集中していた。

また、サンカクシャのシェアハウスに対するリクエストとしては、スタッフの常駐、入居する上での基本的なルールを守ることなどの指摘があった。

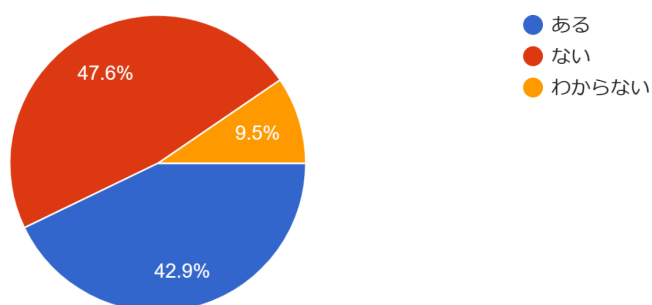
⑧サンカクシャ以前に繋がっていた行政サービス

サンカクシャと繋がるよりも前の時点で行政サービスを利用したことがあると回答したのは約43%であった。一方で、利用したことが無いと回答した若者も約48%となっており、少なからぬ割合の若者が行政との接点を持ってないでいたことがうかがわれる。

今回の調査では、行政サービスの利用有無のみを調査しているが、次回以降は行政サービスの認知度（知っている／知らない）についても調査していくことで、若者と行政の接点についてより実態を明らかにできると考えられる。

サンカクシャにつながる前に、行政の支援に繋がったことはありますか？

21件の回答

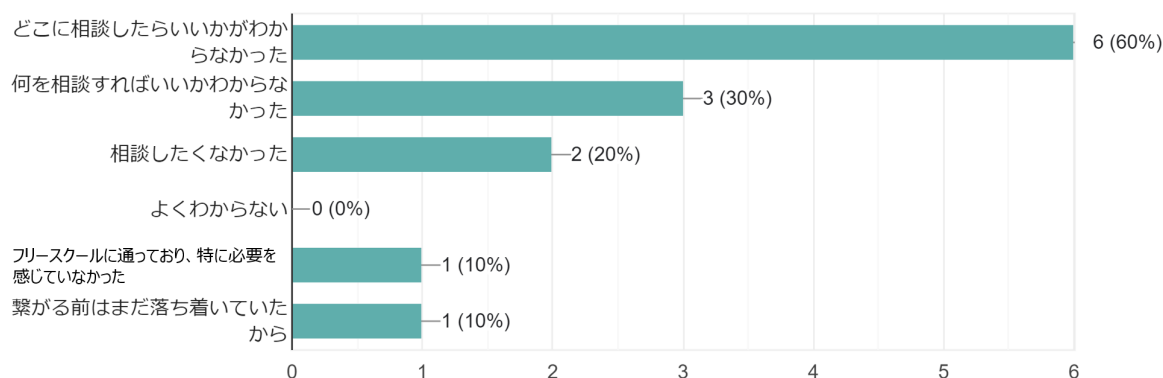


⑨行政サービスに繋がらなかった理由

行政の支援に繋がらなかったと回答した回答者（N=10）に対して繋がれなかった理由を尋ねたところ、最も多かったのは「どこに相談したらいいかわからなかった（60%）」であった。次いで、「何を相談すればいいかわからなかった（30%）」が多く挙げられており、困りごとを抱えている若者と行政側との接点が無いことが問題であることがうかがわれる。また、若者が自分の悩みごとをうまく言語化し、伝えることに対して難しさを持っていることもうかがわれる。

（繋がったことがないと回答された方へ）繋がったことがない理由を教えてください

10件の回答



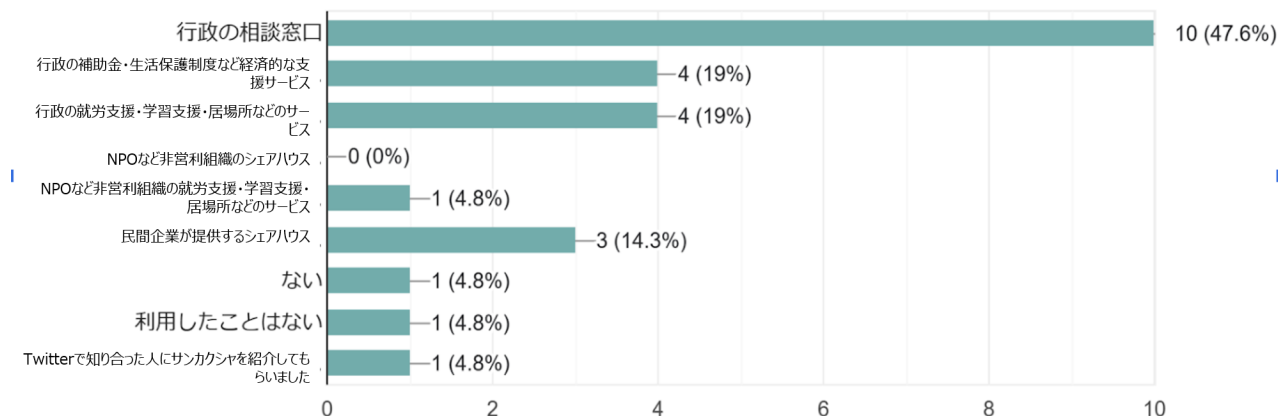
⑩サンカクシャと繋がる前に利用したことのある支援

サンカクシャ以外に利用したことのある支援・サービスとして最も回答が多かったのは「行政の相談窓口（約48%）」であった。これは、行政の相談窓口からサンカクシャにリファ－されてくるケースが一定数あることを反映していると考えられる。その他、「行政の補助

金、生活保護制度など経済的な支援サービス」「行政の就労支援・学習支援・居場所などの支援サービス」「民間企業が提供するシェアハウス」などが複数の回答者から挙げられた。

サンカクシャとつながる前に利用したことのあるサービスとして当てはまるものを全てお選びください

21件の回答



⑩今の生活で悩んでいることや将来について考えていること

自由回答として21名中13名から回答が寄せられた。記載内容として多く挙げられていたのは「将来への不安」であった。具体的には、安定して働くことができるのか、収入が得られるのか、といった就労に関する不安が挙げられた。

また、就労の見通しに関連して、自立した生活を送ることに対する不安に言及する回答もあった。その他、家族や友人関係など人間関係についての不安を挙げる回答も見られた。

全体的な傾向として、回答した若者の多くは現状について問題意識を持っており、安定的な就労や自律的な生活といった目的を持っているものの、それでも働けていないという状態が浮き彫りとなった。

【ヒアリング調査】

ヒアリング調査は5回実施し、6名の当事者の意見をうかがった。

それぞれのヒアリング内容を下記に記載する（氏名等個人情報は削除している）。

① Iさん（24歳）

1.ご自身の生き立ちについて

家庭環境：

- 父、母、本人の3人家族
- 一人っ子だったこともあり、親が先回りして関わってきていた。
- 母親が怖かった。怒鳴られることが多かった。少し反抗すると喧嘩になってしまうため、自分が黙って耐えるという選択を採ってきた。怒られたくなくて、反抗もせず耐えてきた。
- 父親はあまり話さないタイプだった。学校で大変なことがあっても話してはいけないのではと思っていた（高校まで）。

教育との繋がり：

- 高校卒業後、大学まで進学

就労状況：

- 大学卒業後、アルバイトをしたり、ウェブデザインの勉強をしたりしていた。
- この先どうしようと悶々としていた。人に頼るということは弱いことだと思っていた。
- 大学卒業後も実家暮らしでそこからアルバイトに通っていた。
- 就活については4年の3月からはじめ、何度かエントリーするも面接が怖くてなかなかいけなかった。
- 1人でなんとかしないといけないと思い生きてきた。

他者との繋がり：

- 大学4年の最後くらいに、（恥ずかしいんですけど）カウンセラーに話をしに行った。
- （悲しいくらい）繋がりも少なかった。他に頼った場所は、カウンセラー以外には思い当たらなかった。
- カウンセラーにはいろいろ抱えていた人間関係の悩みや、就活の問題、卒論のことを相談した。
- カウンセラーの紹介でいくつか病院を紹介してもらい、通院は少しだけしていた。病気が治って、通院はしなくなった。
- 卒業後は、大学のカウンセラーとの繋がりも切れてしまった。

2.サンカクシャに繋がる前の支援

困り経験とその時の対処エピソード

- いつまでも家にいるのはまずいかなという気持ちがあった。
- 卒業後、エージェントを介して就活をしていた。ずっとバイトもあったが、人と接触する形ではなく、工場で働いていた。

- 北区にあるシェアハウスに1ヶ月くらい滞在して環境を変えようと頑張っていた（一般のシェアハウス）。実家で一人だったので、虚しさや人恋しい部分があり、シェアハウスに問い合わせた。
- 1ヶ月くらいでシェアハウスは出たが、やはり誰にも頼らず一人で悩みを抱えていた。
- 流石にまずいと思ったことと、貯金も無くなっていくこともあり、実家に戻る決断をした。

これまでどんなサポートを受けてきたか

- 行政などの相談を活用したことはないが、サンカクシャにくる前に、サポステ（若者サポートステーション）などに通っていたことはある（埼玉県）。
- こういうところがあるんだという驚きと一人でなんとかしなくてもいいという気づきがあった。
- カウンセラーとは違うまた別の相談ができて、1人だったので、活用してよかったと思っている。
- サポステは2、3週間しか利用しなかった。その段階でサンカクシャを見つけ、サンカクシャを利用するにあたって、サポステは遠くなったこともあり、サポステの利用は終わった。
- こっちに来てから、サポステをまた利用しようという思いはなかった。考えることがいっぱいでもう頭が回らなかった。
- 今はサンカクシャのサンカククエスト（仕事体験プログラム）を利用し、アルバイトで就労できるようになった。

NPOなどの民間事業者の支援・サービス利用歴：なし

行政サービスの利用歴：あり（サポステ）

各種支援・サービスの認知状況：

サンカクシャと繋がる以前に、民間の支援・サービスがあることを知っていたか

- そもそも支援などをあまり知らない。
- 相談をすることで親に何か言われるのではないかという気持ちがあった。

同、行政サービスがあることを知っていたか

- 民間同様知らなかった

（知っている場合）知った経緯はなにか

- 東京都のYouTubeをみて、サポステを知った。
- もともと益田先生（早稲田メンタルクリニック院長 益田裕介先生）のYouTube (<https://www.youtube.com/@masudatherapy>) をみていて益田先生がサポステのイベントに登壇することを知り、サポステとサンカクシャを知った。

3.サンカクシャの生活支援について

どのような経緯で支援を知ったのか

- 上記に記載

利用することの決め手

- 自分が情けないくらい、自分で抱えてしまい人に相談できない部分があった。その部分を、人の輪の中に入って変わっていきたいと思った。
- アドバイスを受けて、努力していくことをしたいと思った。

利用してみたの感想（印象的なエピソード）

満足しているところ、改善点（アンケートで記載されたことの深堀）

- 自分一人ですっとやってきたが、自分の辛さや悩みを誰かに言えたということで救われた。加えて、サンカクキチ（サンカクシャ運営の若者の居場所）のような居場所があることで孤独感が少なくなった。嬉しかった。
- シェアハウスに入居したばかりの頃は全然眠れなかった。深夜までみんなゲームしてるとか、夜遅くまで起きてるとかでうるさかった。自分はメンタルが弱いので、朝早く起きて気持ちを整える習慣があった。しかし、それが崩れてしまい調子が悪かった時期もあった。
- サンカククエストの改善点はない。
- サンカクキチで過ごす時に自分が人間関係を怖がってしまう臆病なところがあるので、なんとかしようと思うものの、前に進むことができなかった。もう少しスタッフが介入してくれるといいという気持ちもあるが、あんまりこういうことをいうとスタッフも悲しむかなと思ったりした。スタッフにも声かけづらかったし、輪に入っていくのが辛い時はある。

生活する中でできるようになったこと、わかったこと

- 自炊をするようになった。コメとか炊くことなかったの、そういうこともできるようになった。
- 居場所があることで、一人じゃないという、根拠はないけど、安心感みたいなものが増えていった。
- サンカククエストにありがたいことに、12月の3日間入って、アルバイトの経験を積みせてもらった。
- 1人じゃなくて3人で仕事する機会があった。人という中で一緒に仕事する心地よさが嬉しかった。それに気づけた。

4.生活支援以外で繋がっているサンカクシャの活動

- サンカクキチやサンカククエストを利用（詳細は前述）

5.サンカクシャのスタッフについて

生活支援で関わるスタッフの位置づけ、どのように捉えているか、どういう存在なのか

- 自分が怖がって、話に行くのが苦手という意識はあるが、話すと、話してよかったと思う。
- スタッフは友達という存在ではない。自分の悩みごとを、なんでもってわけではないけど、一緒に困ったねとか話せる。なんか辛いよねとかお互い話せる。
- 自分ひとりだけじゃない、悩んでいることを、何か自分が恐れていることを、吐き出せる存在。

6.サンカクシャ以外で繋がっている場所

- 今のところ繋がっているところはない。
- 他のところと繋がりたいというよりは怖さが先立ってしまう。自分で行くということが大事だが、そこに怖さが出てしまう。
- サンカクシャの人についてきてもらうとかの方が心が軽くなると思う。

7.今後の展望

今後どのような生活をしていきたいか

- 今も変わらず、朝散歩をして気持ちを整えたい。走るとかの運動をして気持ちを整えたい。
- いずれはここを出ないと困ったことになる、大変なことになると思う。
- 彼女と一緒に暮らしたい。

どのようなことをしたいか（就労その他の面で）

- 仕事はやっぱり自分が学んでいるウェブ制作の会社で働きたいというのがずっとある。
- 1年後のゴールとして社員として働くというのもあるが、ウェブ制作の業界に早めに入って経験を積みたいという気持ちがある。アルバイトで早めに入って、経験を積むことを目標にしている。

どういう支援を望むか（制度の改善点）

- 職業訓練でウェブデザインのコースがあるが、人気だった。であれば自分で勉強しようという気持ちがある。
- 行政の支援としては、今もあると思うが、悩んだ時にガス抜きができる支援。それを予約したりするけど、3週間後とかなので、1週間後とかすぐに話せるシステムがほしい。
- こういう制度があるとかの宣伝がほしい。自分から探しに行くと時間もかかるし、すぐわかるわけでもない。書類とか読まないといけない。

制度とかはどこで知る？

- ツイッターとかでたまに流れたりする。失業保険のことなどがたまに流れてくる。自分から探すのは難しい。
- 話せる場所が、気兼ねなく気持ちを打ち明けられる空間があったらよかった。

② Dさん (20歳)

1.ご自身の生い立ちについて

家庭環境

- 1、2歳の頃に、親が離婚。
- 4つ子（男2人女2人）。1人、足が悪くて障害を持っている。親が離婚したタイミングでその子が母親の方に。自分は父親、男兄弟2人で暮らしていた。妹は施設に入っていて、今もそこで暮らしている。弟はめっちゃ短気で、中学の時に暴行したりして、少年院に入ったこともある。中3の時に出てくる。弟はその後、私立高校に入ったものの、高校でも暴行などで拘置所に1ヶ月くらい入る。さらに大学に進学したものの、1年くらいで中退する。
- 6歳くらいからサッカーを始める。サッカーを始めたくらいから親が厳しくなり始める。親がしばいてくる時に以前は平手だったのが、年老いて、力もなくなってきており木刀などになった。
マンションに住んでいたから、周りに通報などされる。一時保護などに3回くらい入った。
- 3年から4年生くらいの時に、親が脳梗塞になって仕事を辞める。生活保護を受ける。薬を飲みながらマシになったから、小6くらいの時に仕事を始める。
- 親が夜勤になったこともあり、自分たちが生活のことをあれこれやらなくてはいけなくなる。小学生だから抜けてることが多く、それでよく怒られた。
- この家にずっといるというのはあまり考えてなかった。弟も出たいとはいうものの、なかなか出ないので、自分一人で家を出ることになった。
- もともと東京に来たいという気持ちはあったが、一旦大阪に行って友達の家泊まったりしていた、ネットカフェに泊まることもあった。
- NPOとか泊まる場所が関西にあまりなく、東北などにはあることがわかったが、遠いので、関東でも見つけたので、千葉県にあるシェアハウスに連絡をとった。そこは、写真と違って、部屋も汚く、人数もたくさんいた。
- 仕事はなんでもあると言われたのでここにしようと思ったが、行ってみたら全然違った。困ったタイミングで、サンカクシャを見つけて連絡をとった
- 夜に、千葉県のシェアハウスから出ようとしたら、見張りがいて、外に出られず、翌日に見張りがいないタイミングで逃げて、サンカクシャにたどり着いた。

教育との繋がり

- 学校にはどっちかといえば行きたいくらいの気持ちだった。親は絶対行けというスタンス。
- 指定校で進学。大学入ってから取りたい資格があったが、取得後はもう行く必要ないかなと思っていた。部活もしんどいし、大学は辞めたかった。
- 親に行っても辞めさせてくれないので、親と一緒に過ごす気にならず、親のサインを友達に書いてもらい、ハンコも勝手に押して勝手にやめた（笑）。

就労状況

- 大学を辞めてからは、1ヶ月くらい日雇いや友達の親の仕事を手伝ったりしていた。高校のとき、3年間、劇団の引越しのバイトをしていた。
- ちょっとだけお金を貯めて、家を出る資金にし、家を出た。

他者との繋がり

- 頼れる大人や機関はいなかった
- 出身県（関西）の周りはサポートする団体などは自分が調べた限りでは見つからなかった。
- 友達の家に頼って行ったものの、弟の知り合いでもあったので、親同士も繋がっていたこともあって、そこにいられなくなった。親戚も頼れなくはないが、親が借金などで縁が切れていたこともあり、頼れなかった。他の繋がりも家族との繋がりがあるので頼れなかった。
- 家の近くにいるといつか見つかりそうだと思って公園にいた。人通りも多いので、バシないと思った。公園には1週間くらいいた。
- 日中はゲーセンの椅子に座って適当に過ごし、夜は公園の土管などで寝泊まりしていた
- でも、警察や警察犬などがウロウロしていたので、ここにはいられないなと思って地元を出た。

2.サンカクシャに繋がる前の支援

これまでどんなサポートを受けてきたか

- 一時保護を受けていたり、一時期世帯で生活保護を受けていたことがあった。
- 弟は少年院などに入っていた。

NPOなどの民間事業者の支援・サービス利用歴

- 役所に相談に行ったような気もする。
- 家に通報されるのが怖かった。
- 親が捜索願いをすぐ出すタイプだったので、探されると面倒だった。

行政サービスの利用歴：あり

各種支援・サービスの認知状況

- 知ってはいるが、親に通報されたくなかったから利用しなかった。

サンカクシャと繋がる以前に、行政サービスがあることを知っていたか

- NPOみたいな支援してるっぽいところはあった。
- そのツイートに、騙されたとかそういうコメントがついていた。
- 千葉県にあるシェアハウスも、条件良すぎて怪しいと思った。
- Googleで調べると、ルールや制限が多い施設の情報とかは出てきた。年齢が18歳まで使えるとか、女性限定とか、そういう情報はいっぱい出てきた。
- あとは、いっぱいツイッターで調べて出てきたが怪しい情報が多かった。

3.サンカクシャの生活支援について

どのような経緯で支援を知ったのか

- ツイッターで見つけた。家出かシェアハウスで引っかかってきた。ハッシュタグではなく、文章で引っかかった。

利用することの決め手はなんだったのか

- NPOって書いてあるし、代表って書いてあるし、連絡したら早かったし、スムーズに決まったから。

利用してみたの感想（印象的なエピソード）

- 素行の悪いやつがくるまでは平和だったが、素行が悪いやつがきてから、ゴミとか騒音とかトラブルが増えた。
- サンカクシャ自体はめちゃくちゃよかった。
- 東京都区内の別のシェアハウスなどの怪しい話も聞いて、ここでよかったと思っている。

満足しているところ、改善点（アンケートで記載されたことの深堀）

- 他の住人は、電話もスピーカーだし、階段の上り下りの音もうるさいし、物も散乱するし、でも素行の悪いやつらがいなくなってからは平和。
- 良かったところは、普通に過ごしやすいこと。快適すぎて、危機感を感じる。米もあるし、何かないといつとんでもしてくれる。
- そもそも綺麗。担当がいるところも良い。担当がいると、思ったことが言えるから良い。誰に言ってもいいが、感情が読めないスタッフは話しにくいと感じる。

生活する中でできるようになったこと、わかったこと

- 変化は思い浮かばない。
- とりあえず、正社員でまじめ働かないといけない。仕事を探しても、体育会系すぎて無理だった。営業しかないと言われて、そこは辞めて、今は別のところを探して日雇いしながら生計を立てている。仕事を早く見つけて、仕事っていうよりは正社員で、ここにコミットするという場が欲しい。
- ここは居心地がいいけど、居心地が良すぎて、このままでいそうで心配。

4.生活支援以外で繋がっているサンカクシャの活動

- サンカクシャの繋がりでいろんな人とは繋がったりはしている。
- 特にクエストでいろんな仕事先とは繋がったが、そこで合わなかった人がいて辞めてしまった。
- キチにはあまり行かない。自分はサンカクキチにいる子たちと雰囲気合わなかなと思っている。

5.サンカクシャのスタッフについて

生活支援で関わるスタッフの位置づけを、どのように捉えているか。どういう存在なのか

- サンカクシャのスタッフは友達でもないし、普通に話しやすい大人の人のというイメージ。言いたいこと言える相手。いい感じ。
- スタッフに対しての希望は、特にない。

6.サンカクシャ以外で繋がっている場所

- 特になし。
- 家族は、今も縁を切っている。

7.今後の展望

今後どのような生活をしていきたいか

どのようなことをしたいか（就労その他の面で）

- 早急に仕事を見つけたい。
- お金も使う。お金が貯まったらここは出ていきたい。
- 働いて普通にどこかで暮らしてやっていきたい。
- 一人で暮らすとなれば東京には住まない。神奈川とか埼玉とか東京は家賃が高いから住まない。東京は人が多すぎて嫌だ。

どういう支援を望むか（制度の改善点）

- 特にない。
- 今割とサポート受けてるので、特にない。
- なかったらなかったで自分で探す。
- 幼少期に家族から守ってくれるところとかあったらよかった。

そもそも市役所は入りにくい。入ったら広くて大勢がいるところは無理。もっと個室とかを整備してほしい。自分で行けるけど、入りにくいタイプの人もある。

③ Sさん (24歳)

1.ご自身の生い立ちについて

家庭環境

- 生まれて3歳くらいで親が離婚。母親に引き取られたが、育て切れなくなって、4、5歳の時に祖父母に養子縁組され、高校生まで育ててもらった。
- 中学の時に母親が再婚し、一時、やり直したが、本人が受け入れられず、また祖父母の養子縁組に戻る。
- 家族関係で特に苦労したという感覚はない。

教育との繋がり

- 家より学校の方が好きだった。サッカーと陸上をやっていた。足ははやい。家は、勉強と寝るくらいだった。
- 高校受験のタイミングで母親と祖父が喧嘩していた。学校に相談したが、学校側は特に何も対応はなかった。

就労状況

- 高校卒業後は、母親が祖父母とも仲悪くなり、家が嫌になってしまい家出をする。その時にどこかに相談したとかはない。福岡に出て3ヶ月くらいホームレスをしていた。
- その時に人材派遣の社長と出会い、解体工事の現場で2、3ヶ月現場の仕事をする
- 18歳の時に家を出て、21、22くらいまで地方を転々としていた。
- 22歳くらいの時に愛知にいて、ツイッターから探した仕事で搬入搬出の仕事をやって、その人と仲良くなり、家とかも借りてもらい住み込みで働いた。固定の家があったのは愛知にいた時に、家を借りて住んでいた1年間くらい。
- その後、愛知に飽きたので、23歳の時に東京にきた。知らないところに行きたかった。いろんなところを見てみたいという気持ちが強い。最近は思わない、体がしんどいから(笑)。
- 東京にいた半年くらいはよくないことをしていた(笑)。 お金がなかったので、寮完備、高日給でツイッターで調べたらヒットしたものをやっていた。

他者との繋がり

- どこにも相談したことはない。
- 家があるうちに貯金をして、当分仕事がなくとも大丈夫だった。
- 寮だったので、食事もついてた。
- お金を使うところもなく、お金は貯められた。

2.サンカクシャに繋がる前の支援

困り経験とその時の対処エピソード

- 知らない土地にいつも行くけど、人間関係に恵まれてるのか知らないけど、仲良くなって人から仕事をもらうことが多かった。
- 福岡にいたとき所持金2000円しかなかったけど、飲み屋に入ったら、隣にいた人が人材派遣会社の社長で、向こうから話しかけられ、仲良くなり、仕事をもらった。

- 愛知の時は、ツイッターで募集がかかっていた派遣会社に応募して入ったが、専務がたまたま現場に出ていて、専務に気に入られて、家とか全部借りてもらって、もらえる仕事全部もらって生活していた。
- 東京でバイトをしていたが、半年ほど都内のシェアハウスに入った。出た理由としては、特にないけど、このままここにいたらダメだと思ったから。

これまでどんなサポートを受けてきたか

NPOなどの民間事業者の支援・サービス利用歴

- 特になし。

行政サービスの利用歴

- 特になし。

各種支援・サービスの認知状況

- 生活保護とかシェルターみたいなものは知っている。

サンカクシャと繋がる以前に、民間の支援・サービスがあることを知っていたか

(知っている場合) 知っていたにもかかわらず利用しなかった理由は何か

- 縛られなくなかったから。いろいろ制約がついてくる。
- お金をもらうというのがあまり好きではない。生活保護を利用しようと思ったことはない。
- シェルターみたいなのも、制約がなかったとしても利用したくはなかった。シェルターに行っても、改善される未来が見えなかった。ホームレスをしていた時も別に困ってなかった。家はないけど困ってなかった。明日どうしようとか食べるものがないとかは何回かはあった。それでも切羽詰まることはなかった。困っても期間的には1日、2日程度。

(知っている場合) 知った経緯はなにか

- 家を飛び出したときに、どうしようとなって、ぱっと調べたことがある。
- その時にいろいろ知ったが、利用しようとは思わなかった。めんどくさそうだなと思って避けた。

3.サンカクシャの生活支援について

どのような経緯で支援を知ったのか

- ツイッター。シェアハウスで検索に引っかかった。ハッシュタグではない。
- たまたまツイートされてて、上の方に出てきて知った。とりあえず公式サイトを見た。

利用することの決め手はなんだったのか

- 和室でゲームしてる写真があった。和やかそうだなと思って、殺伐とした雰囲気ではなさそうだったから連絡しようと思った。

利用してみたの感想 (印象的なエピソード)

- 「ありがとうございます」という感じ (笑)。

満足しているところ、改善点 (アンケートで記載されたことの深堀)

- お米が家にあるというのはありがたかった。
- 1部屋2人とかなのがありがたい。

改善して欲しい点は特にない

- 自分の部屋が汚いことくらい（笑）。

生活する中でできるようになったこと、わかったこと

- 生活リズムが良くなった。夜寝て朝起きるという生活ができてきた。最初に来た時は、朝寝て夜起きるという生活だった。
- 今は生活で困っていることはない。

4.生活支援以外で繋がっているサンカクシャの活動

- サンカクキチの利用は何回かある。家がなかったら利用したいなと思っていた。シェアハウスに住んでなくて、サンカクキチのこと知ってたら普通に利用してたと思う
- IKEAに一緒に行ったりした。コマダのアルバイトを以前紹介してもらったこともある。職業紹介はしてもらえるとありがたい

5.サンカクシャのスタッフについて

生活支援で関わるスタッフの位置づけを、どのように捉えているか。どういう存在なのか

- 相談相手というイメージ。なんかあったら相談する相手と思っている。
- 改善点などは特にない（笑）。

6.サンカクシャ以外で繋がっている場所

- 今、仕事させてもらっているところの人。
- 利用している福祉サービスは特にない。

7.今後の展望・今後どのような生活をしていきたいか

- 家を借りるところまで持っていきたい。一人暮らしをしたい。
- 結婚願望はあり。

どのようなことをしたいか（就労その他の面で）

- まだ正社員ではないが、委託で仕事をしている。今後はそこで安定した仕事を続けたい。
- 今は公園の写真をとる仕事をしている。東京の公園を全部撮り終わったら、違うところに行く可能性もある。
- でも、もうあまりあちこち行ったり、引っ越ししたりしたくない（笑）。

どういう支援を望むか（制度の改善点）

- 自分が未成年で家を出た時、役所の手続きが何もできないというのはすごく困った。制度とか支援の情報は難しいしわかりにくい。文章がばーっと長文で書かれていて、手続きがめんどくさそうと思う。箇条書きくらいでまとまったら読むかなと思う。
- 役所からおすすめされる場所はいいイメージがない。固いイメージ。

- 行政のサービスはすぐ利用できないんだろうなという印象があるから、利用したくない。身分証とかないものが多いので、何か足りないというのがわかっていたので面倒が起これると思っていた。
- LINE相談とかは、知らなかった。LINE相談があるなら、使ってたかもしれない。
- 児相とか、施設とかは好きではない。家を出た時に、気分が沈んでいた。施設は似たような人が多いと思うから、より沈みそう。環境に飲み込まれるんだったら、一人でなんとかしようと思った。共同生活や集団生活に抵抗がある。施設の改善点などあったら利用してもいいかとかは思わない（笑）。
- シェアハウスは施設とは違う認識。1度、10人部屋を経験して、まあいいかとなった。シェアハウスに行っても環境に飲み込まれそうにはならないと思えた。
- Googleで検索かけるとたくさん出てきて見つからない。ツイッターの方が見つけやすい。ツイッターとかで役所のアカウントとかは出てくるけど、自分が求めているのはすぐに見つからない。ツイッターは検索して求めているものがヒットしやすい。

④ Oさん（22歳）

1.ご自身の生い立ちについて

家庭環境：

- 父（56）母（56）。両親に愛されていると感じたことはない。
- 大学に行ってた時に、両親が喧嘩をよくしていた。父親がかなり怒鳴り、母親もそれに応じていた。喧嘩をしていて怖かったというイメージ。自分に危害が加わることはなかった。
- 普通だった。
- 家を出てからは両親共にやりとりしてないし、家にも帰っていない。

教育との繋がり：

- 高校までは実家で暮らしていた。
- 大学生の時は山陰地方の大学の寮に入っていた。
- 家にいたくなかったので、上京した。

就労状況：

- 大学卒業後は、警備の仕事（非正規）をしていた。外仕事だったので体調が悪くなることが多かったため、退職。
- ネットカフェに泊まっていたが、お金の都合もあり、サンカクシャに連絡した。

他者との繋がり：

- 人と話すことが苦手なので他者との繋がりはいままであまりなかった。小さい頃から人と話すことが苦手だった。
- 中学までの友達と別の高校になったので、高校進学を機に疎遠になった。今も全く連絡をとっていない。
- きっかけなどはあまり思いつかない。

2.サンカクシャに繋がる前の支援

これまでどんなサポートを受けてきたか

- 市役所の生活困窮の窓口で相談したことはある。住所確保給付金みたいな説明を受けた。
- その時は、お金もなく住まいもなかったが、「施設に行きますか？」という話もなかった。その時は自分に合った仕事がありませんでした。

NPOなどの民間事業者の7y支援・サービス利用歴

- サンカクシャ以外に相談したことはない。他の支援はあまり知らなかった。

同、行政サービスがあることを知っていたか

- ネットで検索して見つかったところに相談した。
- 生活支援のような言葉で検索をした。

（知っているとは回答した場合）知っていたにもかかわらず利用しなかった理由は何か

- 相談したが、適切な支援を案内されなかった。

3.サンカクシャの生活支援について

どのような経緯で支援を知ったのか

- ツイッターで生活支援というワードで検索。
- あらいちゃん（サンカクシャ代表）のツイッターを見つけてDMを送った。

利用することの決め手はなんだったのか

- 決め手はなかったが、とにかく相談したかった。
- 若者支援というワードもあったので、自分に合ってるかなと思った。

利用してみての感想（印象的なエピソード）

- シェアハウスとサンカクキチはいい場所だなと思う。居心地がいい。
- サンカクキチはいろんな人と会えてよかった。人と関わるのが苦手だけど、自分を否定してくる人があまりいない。

満足しているところ、改善点（アンケートで記載されたことの深堀）

- 改善点は、言いにくいですね（笑）。
- サンカクキチが空いてる日が少ない。もう1日くらい増やしてほしい。もっと空いてればいいなという感じ。

生活する中でできるようになったこと、わかったこと

- お金の管理をすごくやるようになった。（今は生活保護なので）もらえるお金が少ないので、頑張ってやりくりしている。お金が少なくてしんどい。
- 早く仕事を見つけないといけないなと思う。
- サンカクシャに繋がって人と話すようになったのは良かったこと。
- 生活リズムとかは変わっていない。掃除するようになったりはしてない（笑）。

4.生活支援以外で繋がっているサンカクシャの活動

- クエストは使ったことないが、クリ研（サンカククエストのクリエイティブな仕事の経験を積む支援）の動画編集のやつの説明は受けた。
- 今度、TikTok主催のワークショップにも参加する。

5.サンカクシャのスタッフについて

生活支援で関わるスタッフの位置づけ、どのように捉えているか、どういう存在なのか

- すごくいい人たちだな。
- たまに変な絡み方をされる。急にピースされたりするけど、あれはよくわからない（笑）。

6.サンカクシャ以外で繋がっている場所

- 特になし。
- 友達はいない。
- サンカクシャの中ではKさんとはよく話す。

7.今後の展望・今後どのような生活をしていきたいか

- 早く仕事を見つけたい。
- 生活面では、異性と付き合ってみたい。あまりそういう経験をしたことがない。恋愛感情をもったことは何回かあるが、付き合ったことはない。サンカクシャで合コンのセッティングとかしてくれたら行きたい（笑）。
- やりたいことは、まだ見つけられていない。まずはお金を稼ぐために仕事をしたい。

どういう支援を望むか（制度の改善点）

- 仕事を辞める前にもっと、支援みたいなものが欲しかった。全部失ってからではなくて、そのもう1つ手前で何かサポートがあったら違ったのかもしれない。
- 家が経済的に貧しかったので、大学も近くの国立にしか行けなかった。いろんな大学に行けるような経済的な支援があったらよかった。
- 早めに東京に出たかった。逃げるようにこっちに来てしまったので大変だった。
- 制度のことなどはあまり知らない。生活保護も具体的には知らなかった。役所の印象は柔軟じゃなかったという印象。

⑤ Aさん（26歳）、Tさん（18歳） ※グループインタビュー

1.ご自身の生い立ちについて

家庭環境：

A：

- 幼稚園くらいに両親が離婚。母親のところで生活する。
- 親とは連絡を取っていない。小3時に親が再婚。義理の父親と母親との間に妹が生まれ、母親が2度目の離婚。妹と本人は母親の元へ。そもそも、母親と仲が良くなく、話したりもしない関係性だった。家を出てもいいかなと思うようになった。
- 高校卒業して3年間くらいドラックストアで働く。働き出してからちょっとした頃から友達の家泊まり出した。
- 周りが大学に入り始めるようになり、友達があちこちに行き、自分もどこか行きたくなり、友達の紹介で東京のラブホテルで清掃の仕事につくタイミングで上京。千葉県で鳶職をしていたが、体を壊して働けなくなってサンカクシャにつながる。

T：

- めちゃくちゃ極端にいうと劣悪。1歳、2歳くらいで両親が喧嘩して、離婚。兄はまだ母親の元で仕事をしながら生活している。
- 母親がうつ病。兄弟間でよく喧嘩をしていた。母親は兄ばかりをひいきする。いつも自分のせい。たまに母親が包丁を振り回すような家庭環境。母親のうつ病は多分、育児の難しさだと思う。幼稚園の時は、会社が大変だったと聞いている。母親が今何をやっているのかわからない。親を殺したい時期があった。
- 小学校ではいじめを受けていた。小2・小3から自殺願望あり。小学校の先生に相談しても何にもなかった。止められることすらなかった。味方がいない状況だった。
- 小6時に、母親が病気で倒れた。自分が小2から母親がネットの配信をしていて、出会い系が激しくて、家に知らない男の人が度々来ていた。
- 母親が進路を勝手に決め、精神障害者手帳も勝手に取らされた。
- 今の学校に相談して子ども家庭支援センターと繋がり、サンカクシャと繋がる。18歳になったタイミングで勝手に家を出ることになった。

教育との繋がり：

A：

- 学校には高校まで不登校になることなく行っていた。

T：

小・中・高まで行っているが、小学校の頃から学校は相談にも乗ってくれなかったし、自分のことは聞いてくれず、親の言いなり。自分の意見を聞いてくれない。不登校になりたかったが、行かされていた。

就労状況：

A：

- 高校卒業してから3年間正社員として働いていた。その後、知り合いから東京の仕事を紹介されて東京に来た。
- コロナの影響とかでその仕事は長く続かなかった（半年から8ヶ月くらい）。
- その後、仕事を探して、すぐできるのが、建築とか外仕事で、1年半くらい千葉県で鳶職やった。父親がもともと鳶職だったので、中高の時父親の手伝いをしていた時期もある。鳶職と言ってもライブの設営が多かった。
- 体を壊して、2022年5月くらいに辞めて、1ヶ月間くらい仕事を探していたが、なかなか見つからなかった。その時にサンカクシャを見つけた。そこからは単発の仕事を繰り返して、12月までは雀荘の仕事をしていたがそれも辞めて、今は何もしていない。
- 他と違った仕事が結構好きだったのでなんだかんだ続いていた。

T:

- これまでバイトはしたことがない。学校がバイトNGのところでは我慢していた。
- 就職先の内定までの道のりも、1年生の頃から聞かれて実習に行ったりして、2年生の時に、具体的に決めていった。実習に行った時の社内環境とか雰囲気が無理そうだなと思った。
- 清掃とか建設とかいろんな仕事を体験して、今の進路先の事務の方に進むことにして、3年になって面接して無事に働き先が決まる。
- もともと障害者手帳とかとる気がなかったので、周りの人がまともなところや条件がいいところを選んだ。障害者雇用で働きたくなかったがそうだった。責任を持つ仕事でもないし、給料も心配だし、今後は一般雇用への転職を考えている。給料のこともあるし。
- 母親のせいで障害者手帳を取らされた。小学3年のころから検査をしていたが、診断がつかず、母親に精神科に連れて行かされて、うつ病だとかいろいろ嘘について、意見書をもって、診断が降りることになった。そのせいで今の学校に通わされることになった。

他者との繋がり:

A:

- 九州からこっちに来てからは、紹介してもらった友人の家とかに泊まったりしていたので、友人は頼っていた。
- 鳶の仕事を見つけるまでは、ホテルで働いていた人のついででいろいろ仕事を紹介してもらった。
- 鳶職を辞めての1ヶ月くらいは、（サンカクシャに来る前）都内のシェアハウスからDMが来て話をしたことはある。
- ハッシュタグ「家出」で探して出てきた投稿に間違えて「いいね」を押したら向こうからDMがきた。

T:

- 母親が、祖父母と縁を切ったりしていたので、親戚との繋がりもなかった。
- 現実を知るまでは母親が全てだと思っていた、頼れないクソババアだった。
- 大人は誰一人信用できなかった。小学校の時は副校長にも相談していたが、何もしてくれず、むしろ自分が悪いと言われていた。誰も信用できないと思った。

- もともと自分をいじめていたやつも大体嫌いだったが、小4のとき、他の小学校と合併することになり、一時期は平和だった。そこでもいじめられていた噂が広まり、またいじめられていた。だが、いじめていた人たちはたいてい仲良くなっていった。
- 中二くらいから頼れる人が何人かいた。
- 子ども家庭支援センターとかは信頼できると思った。高2くらいから関わっていたが、信用できると思った。

2.サンカクシャに繋がる前の支援

困り経験とその時の対処エピソード、これまでどんなサポートを受けてきたか

A:

- これまでに行政とか支援団体とかのサポートは受けたことはない。役所に行ったこともない。
- 都内のシェアハウスからDMが来たことはあったが、動画などを見てちょっと行きたくないなと思った。
- 最悪そこしかないかなと思っていたが、荒井（サンカクシャ代表）のツイッターを見て、すげえと思って連絡した。

T:

- 学校に家のことを相談していて、外部への相談を紹介された。その相談先が子ども家庭支援センターだった。
- サンカクシャの利用と同時に生活福祉課と繋がった。
- 高校1年生の時に精神障害者手帳を取得、それから障害福祉課につながる。
- プレイパークは利用していた。ただ、相談はしなかった。大人・母親が怖かった。

NPOなどの民間事業者の支援・サービス利用歴

各種支援・サービスの認知状況、同、行政サービスがあることを知っていたか:

A:

- 全然知らなかった。生活保護とかは聞いたことはあるけど、審査とか難しいんだろうなというイメージがあった。
- 今日初めて役所に行って、初めて仕事の相談とかがあるというのを知った。
- 調べようとは思わなかった。相談とか支援とか=市役所、区役所というイメージがなかった。
- 生活に困ったら、生活保護はあるけど、仕事とかは相談できるとは思わなかった。生活保護を受けたら仕事とかできなくなるというイメージもあった。

T:

- 児相とかには相談しようと思わなかった。
- 小学校の時から相談しようとは思っていたが、先生が機能していなかったので相談できないと思っていた。
- 一時保護所に1ヶ月くらいいたことがあったが、体罰とかがあったこともあり、ひどいというイメージがあった。

3.サンカクシャの生活支援について。どのような経緯で支援を知ったのか

A:

- ツイッターで#シェアハウス#家出#都内→サンカクシャに行き着く

T:

- 子ども家庭支援センターの紹介。

利用することの決め手はなんだったのか

A:

- HPで連絡して、返信が早かったこと。夜の3時くらいに連絡したのに、すぐに返信が来た。話している感じ、頼れると思った。写真が綺麗だったこともある。

T:

- 家を出られるなら何でもいいと思っていたため、そのまま頼った。早く家を出たかったが、成人にならないと家を出られないと思っていた。18歳からサンカクシャに入れると聞いてラッキーと思った。

利用してみたの感想（印象的なエピソード）

A:

- 6月に住み始めて、初めてサンカクキチに行って、サンカクキチとかはこんなにゆっくりしていいんだという感覚。
- 泊まりのイベントがあり、徹夜でサンカクキチでゲームをしていた。
- Appleでイベントがあったからそのまま連れて行かれた。
- ただiPhoneの新しいものを見に行けるのかなと思ったら、すごいイベントだった。
- ああいう体験も普通だったらできてなかったので面白かった。いい経験だった。

T:

- 利用してみて大体は良かった。しかし、年上しかいないのが不安。一番年下だからいじめられると思っていた。気まずく、緊張もした。落ち着かなかった。しかし、今は特に問題ない。不満はない。
- サンカクキチは今も気まずい。知らない人ばかり。行きにくい。行く気にはならない。たまに行かないとなぁと思って行っている。

満足しているところ、改善点（アンケートで記載されたことの深堀）

生活する中でできるようになったこと、わかったこと

A:

- 自炊をする機会が増えた。それこそ働く前とか働いていた時はコンビニとかで済ませていたが、（米炊くくらいはあったが）簡単な料理をするようになった。
- 周りに同い年とか下の人とかがいて、これまでは幅広い年代の人と繋がるということではなかったので、いい刺激をもらっている。

T:

- 明らかに心は楽になった。ストレスの原因を取り除けたので楽になった。最近よく眠れているし、家にいたのが馬鹿馬鹿しいと思えるようになった。
- 最近は自炊したり、金銭管理もやって、自分で家計簿つけてみたりしている。

- 対人関係で歳上に関わることができて、緊張はしてたけど、関わるとそれなりに楽しいし、いい刺激になっている。

5.サンカクシャのスタッフについて

生活支援で関わるスタッフの位置づけ、どのように捉えているか、どういう存在なのか

A:

- 最初から世話になっていたシェアハウス担当のFさんは、ご飯作ってくれたり、細かい掃除とかしてくれたり、いろんなアドバイスをしてくれる。気づかないことを教えてくれていい人だなと思う。
- ケース担当のSさんも、上中里のシェアハウスで病気でダウンしていた時は、買い出しに行ってくれたり、入院していた時、差し入れしてくれたり、優しいと思った。
- 積極的に聞いてくれたり、声をかけてくれたり、優しい。全スタッフさんにありがたいと思っている。

T:

- 悪い印象は特にない。優しい方が多い。いろいろ誘ってくれて輪も広がるし、居住支援担当のOさんもいろいろなところについて来てくださって安心するし、心強い。
- 居場所担当のHさんもいろいろ教えてくれたり、ためになったりする。
- Fさんも料理作ってくれたり、自炊始めた時に褒めてくれたり、本当に優しいという印象が強い。
- 悪い印象をあげるなら、恋愛にがめつい。

7.今後の展望

A:

- 自分のしたいこと、やりたいことなどは漠然としているが、2月までにはできれば正社員として仕事を見つけられたらと思っている。
- 家賃も滞っていたので、ちゃんと払ってゆくゆくはシェアハウスを卒業したい。

T:

- 今のところグループホームに行こうとしていて、2月中に行けるか行けないか決まる。行けるならそこで自立をして頑張る。そこが無理だったら、ここでもう少し過ごしたり他の道探すなりしたい。
- 今まで趣味とかも特になかった人生だった。まずは趣味を探してから、仕事のことを考えたい。

どういう支援を望むか（制度の改善点）:

A:

- 市役所って何するところかわからなかったの、住民票の発行とか手続きするところというイメージしかなかった。
- 相談できる場所っていう情報がわかるとよかったし、知っておけばよかった。
- サンカクシャに対してこれ以上求めるということは今のところパツと思いつかぶものはない。

T:

- 児相に相談した時の対応とか改善してほしかった。児相ももっと聞いてほしかった
- 一時保護所に入った時も体罰とかがあって大人を信用できなくなった。
- いじめられたりした時に、学校の対応も変わってほしかった。いじめの対応もちゃんとしてほしかった。
- 学校では、困ってることのアンケートとか、先生自身が聞いてくれるとかいうこともあったらよかった。
- 子供目線からすると大人はやっぱり怖いから、話しかけてほしかった。
- 生活保護を受けてる家庭の調査も入った方がいい。全て困っている家庭ばかりではないと思うが、劣悪な環境だったり、親が困難を抱えている場合の対応とか、そこにいる子供の対応がもう少しあったら環境は変わったんじゃないか。
- 子ども全体、もっとサポートした方がいいのではないか。
- 生活保護を受けてる家庭の子どもとか、普通の家で育ってもいじめられることがあるので、子どものことをもう少しサポートしてほしい。

⑥ Hさん（24歳）

1.ご自身の生い立ちについて

家庭環境

- 家族編成：父親、母親、2つ下の弟の4人家族
- お父さんはあまり自分の意思がない、お母さんの尻に敷かれるタイプであまり頼り甲斐がないけど優しくかった。
- お母さんは結構話が通じない、ヒステリックになる。周りの家族から言いくるめられ、ほとぼりが冷めるのをみんなで待つみたいな感じ。
- お母さんとは、高校に通ってた頃までそんなに仲良くなかったが、20歳くらいの時に帰省するタイミングぐらいで、少しずつ喋れるようになっていった。
- 弟とは連絡先の交換もしてないので、今どこにいるか何してるかはわからない。
- バイトや勉強したりしていたけど、親と喧嘩して、ここにいるのは厳しいなと思って家出をした。1日で親に見つかってすぐ引き戻された。
- 自分ことを心配してか、過保護なのかわからないが、自分の携帯のGPSで位置情報がバレて家出が見つかる。
- それがあってから、免許証とか保険証とか全て親が管理するようになった。少し時がたち、またきつくなり、家出をし、東京に来た。
- 弟も同じような感じで、他県で仕事しているらしい。
- お父さんからずっと早くこの家から出ていった方がいいと言われていた。助けてくれる人でもなかったの、自分から家を出た。母親から逃げるような形で家出した。

教育との繋がり

- 高3の時に勉強についていけなくなり、1年浪人して、大学に4年の半期まで通って、就職とかを考えるタイミングで、自分のやりたいこととか、働きたいこととかわからなくなって引きこもるようになってしまう。休学することになり、実家に帰った

就労状況

- 教育学部にいたので、教員採用試験を受けることになっていたが、その直前に試験からも逃げるように引きこもった。
- 東京に来てからは、2週間くらいは新宿の方において、その後、池袋に行った。
- ネットで調べてバイトを始めた（今、勤めている飲食店のバイト先）。その時は家はなかった。ネットの友達に住所など借りて、バイトの申し込みをした。

他者との繋がり

- ネットの友達くらい。
- その友達とはたまに会う。

2.サンカクシャに繋がる前の支援

困り経験とその時の対処エピソード

これまでどんなサポートを受けてきたか

- お金がなくなったので、ネカフェとかも泊まれなくなった。
- 1回役所に行ってみてくださいと言われ、就労支援の住まいとかがあるよと言われたが、支援を受けるには、今のバイト先を辞める必要があるなどと言われた。あとは、大

学生じゃないということが必要だった。学校の手続きなど何もしないで来てしまっていたので、大学生という状況だった。

- 役所の方から、支援の実績などがあつたサンカクシャを紹介してもらい、サンカクシャにつながる。

NPOなどの民間事業者の支援・サービス利用歴

- 炊き出しに2、3回並んだくらい。
- 炊き出しに相談コーナーなどもあるが、どうやって相談していいかわからなかった。
- 正直、何を頼っていいのかわからなかった。

行政サービスの利用歴

- 区の生活福祉課→くらしとしごと支援センター→サンカクシャに紹介

各種支援・サービスの認知状況

- 役所に行けばなんとかなるという知識はなかった。
- なんとなく生活保護とか福祉とかを調べて、相談できる場所があると知り、区役所に行った。

サンカクシャと繋がる以前に、民間の支援・サービスがあることを知っていたか

- 行政以外の支援があるとは知らなかった。

同、行政サービスがあることを知っていたか

(知っていると回答した場合) 知った経緯はなにか

- 自分で検索して窓口に相談に行った。

3.サンカクシャの生活支援について。どのような経緯で支援を知ったのか

利用することの決め手はなんだったのか

- 紹介された流れ。住まいに困っていた。

利用してみたの感想（印象的なエピソード）

- サンカクシャの悪いと思ったところはそんなになかった気がする。
- 最初は寝て過ごせる場所があるだけで、幸せだった。帰ってきて寝れるだけでよかった。
- 最初はそこまで他の人とも喋らなかった。
- 窃盗にあった。
- 相部屋がきつかった。

満足しているところ、改善点（アンケートで記載されたことの深堀）

- Nくんとかが来てご飯をみんなで食べて楽しかった。ああいうのがあつたから、みんなと話すきっかけになった。
- 住まいに困っていたため、そのニーズは満たされた。

4.生活支援以外で繋がっているサンカクシャの活動

- サンカクキチにはたまに参加したことがある
- ゲームが好きだから、ゲームをしに行った
- コミュカがないからあまり知らない人と話せなかった。
- 今は空いてる曜日と自分のスケジュールが合わないことと、遠いから行ってない。

5.サンカクシャのスタッフについて

生活支援で関わるスタッフの位置づけ、どのように捉えているか。どういう存在なのか

- 担当してくれてるSさんもよく話してくれてるし、面談の時は一緒に部屋を見てくれたりした。担当がSさんでよかった。喋りやすいし。

6.サンカクシャ以外で繋がっている場所

- バイト先。休みの時は職場の人とご飯を食べに行ったりしてる。同年代は少なく、ちょっと上かちょっと下の人が多い。店長には自分の事情とかも話している。

7.今後の展望。今後どのような生活をしていきたいか

- 一番まずい質問。全然先のこと考えられてなくて。
- 生活面では、部屋を探したりしてる。一人暮らしになるんだらうけど、あまり自信ない
- 寂しくて死ぬかもしれない。彼女くらいできたらと思う。
- 就労面では、今、行ってるところを辞める予定はない。そういう話を店長としたことはないけど、正社員になる話とかはしてみたい。いい職場で不満はそんなにない。

どういう支援を望むか（制度の改善点）

- 役所に対しては、困った時に頼りになったし、サンカクシャを紹介してもらったのでできることやってもらった。不満はない。
- そこまで求めてないけど、自分自身がやりたいことが特にないので、そういうのを見つけるきっかけになる何かがあったらなお良いのかなと思う。
- サンカククエストとかで見つける人もいると思うけど、参加してなかったからあまりわからなかった。
- 僕に関しても向いてない仕事の方が多いので、向いてる仕事をいくつか知ることができたら嬉しい。
- 自慢っぽく聞こえるかもしれないけど、ゼロから仕事に慣れるのは得意な方だと思う。
- あとは、生活力の向上の支援。料理できない人もいるので、そういう支援もあつたらいいのかなと思う。僕はレシピ見たらできるけど、できない人もいるので、料理を教えてほしい人はいそう。
- 家族との話し合いがうまくいかなかった。家族との話し合いに第三者に入ってもらいたかったけど、親に怒られたのでお願いすることはなかった。

5. 考察

アンケート調査およびインタビュー調査を通じて得られた結果について、本調査の目的で記載した4つの視点から考察していく。

① サンカクシャの生活支援を利用している受益者像の明確化

アンケート調査およびインタビュー調査を通じて、シェアハウスを利用している若者の実像をより明確に把握することができた。多くの若者に共通して、彼らの生き立ちにおいて家族や家庭環境から大きな影響を受けていたこと、大人や社会に対する不信感、社会との繋がりの弱さ、スマートフォンや交友関係に立脚した情報収集、就労や自立した生活に関する課題感やニーズの存在といったことが挙げられる。以下、それぞれの観点について詳述する。

✔家族関係の困難性

インタビューからは、調査に協力してくれた若者達の多くが、家族との関係性において困難に直面していたことが浮き彫りになった。インタビューの中で、多くの若者が幼少期から保護者の離婚や虐待を経験していたり、保護者が精神障害等の困難を抱えていたことに言及している。

そのような環境に置かれた若者にとって、家を自らの居場所として位置づけることが出来なかったということは想像に難くない。むしろ自身の安全・安心を確立することができ家出という決断を下した結果、社会資源に接続できず孤立化し、ホームレス状態になっていた若者もいた。

このように生活支援に繋がり、シェアハウスで生活する若者の背景には、繋がるまでの過程で居場所を見出すことが出来なかったり、深刻な孤立が存在することが示唆された。

✔大人への不信感の醸成

シェアハウスを利用している若者の多くは、前述の通り家族との信頼関係を構築することが難しい環境の中で生活していたため、大人との信頼関係を築く最初の機会を得ることなく現在に至ってしまっているケースも多い。加えて、一部には家族だけでなく、学校の教職員など、家族以外の大人に対する強い不信感を持っている若者もいた。

家庭や学校は、若者と社会との重要な接点であるが、それらの場所において大人との信頼関係を構築することができなかった場合、それ以外の大人に対しても同じような不信感を投影してしまい、その後問題に直面した際、行政への繋がりを忌避するといった行動に繋がっている可能性がある。

✔社会資源との繋がりの細さ

サンカクシャと繋がる前に、行政（の支援）に繋がっていたのは回答者の約半数（47.6%、アンケート調査）という回答結果であった。

繋がっていなかった理由としては、「どこに相談したらいいかわからなかった」という回答が最も多く（6名、60%）、次いで「何を相談すればいいかわからなかった（3名、30%）」であった。「相談したくなかった（2名、20%）」という回答も見られたが、行政に繋がれなかった若者は、公的な支援に繋がりにたくないわけではなく、むしろそういった支

援に繋がりにたくても繋がれない、繋がっても自分の悩みを伝えられない、という問題に直面していることが多い可能性がある。

支援の現場でも、最初に会って話を聞いた時は「支援を受けたくない」と言っていた若者が、インタビューの中では、「どのような行政サービスがあるのかわからなかったから」「単に利用したことが無いから」という発言が散見されたり、支援を受けたことがないと言っていた若者が、実は過去に行政サービスと繋がっていたことがわかったケースもあった。支援に繋がっていない若者が、利用意向はあるものの繋がれていないのか、本人の意向で繋がらないのかを把握するためには継続的な関わりが重要であると考えられる。

一方で行政サービスと繋がっても、行政の福祉サービスの利用までには至らないケースも少なくない。また、公的支援に繋がった場合でも、支援の場でたらいまわしや、本人の抱えている悩みを解決できないままケースがたなごらしになり、社会に対する不信感をさらに積み増されてしまうリスクもあるため、若者の立場にたって伴走できる支援者の存在が重要であると考えられる。

✔ ネットの情報を頼りに社会資源につながる

直面している問題を解決するための探索手段として、若者はスマートフォンからインターネットにアクセスしたり、友人からの口コミ等を参照していることがわかった。行政の相談窓口などにまず相談するといった行動は、本調査の中では見られなかった。また、スマートフォン以外のチャンネルで情報収集をするという回答も見られなかったことから、若者の初動時の情報収集手段はスマートフォンの存在感が非常に大きいことがうかがわれる。その一方で、インターネット上の情報は玉石混交のため、自分のニーズに必ずしも合致しない事業者やサービスに繋がってしまうこともある。

支援者側の立場では、このような若者の情報収集スタイルを前提として、支援に関する情報をどのように発信していくかを組み立てていくことが重要であると考えられる。

✔ 自立した生活、就労への意欲

アンケート調査およびインタビュー調査の中で、多くの若者が自立した生活を送ることや、安定した職場環境で継続的に働くことに対する希望を示している。

回答の中には、意欲ではなく理解として、社会的に働いた方がよいから、ちゃんとした生活を送れと言われているからそのように回答した若者も一定数いると考えられるものの、自立した生活環境を整え安定的に働きたいと思っている若者の存在が明らかになった。

また、シェアハウスについて「住み心地は大変いいのですが、このままだとこの環境に甘えてしまいだらけてしまいそう」という回答も寄せられており、現状に対する課題感を持っている若者の存在も示唆されている。このように自立した生活や、ニーズにあった就労機会を提供するのは社会の側の役目であるといえる。

一方で、就労に対して意欲を示した若者が働き始めた後、就労状態を継続するのが難しいという実情も、支援の現場で感じられるところである。

「働きたい」という気持ちがあっても働き続けることができない若者には、彼らが持っている「働くイメージ」が具体的ではないために、実際に働いてみると人間関係が大変で辞めてしまう、という背景があると考えられる。過去の就労体験が乏しいため、自分が働き続けられる条件や環境について十分理解できていないことも原因であると考えられる。

また、そもそも就労イメージが、社会の仕事と十分にすり合わせされていない状態で、自身が希望する仕事を探している若者もあり、就労機会とのマッチングがなかなか図れていないというケースもある。

② 生活支援が受益者に提供している価値

調査の中で、多くの若者からシェアハウスが提供しているサービスに関して一定の評価が得られていることが示唆された。特にシェアハウスの価値として、同居する若者や支援者といった他者の存在を通じた、自身の生活リズムの改善や、自分の振舞いに関する内省機会に繋がっていることなどが挙げられた。

✔安定した生活リズムの構築

アンケート調査およびインタビュー調査の中で、若者の生活リズムが整ったことについての言及が多くあった。たとえば「昼夜逆転の生活から、朝起きる生活を送れるようになった」「ちゃんと食事を取るようになった（自炊するようになった）」「掃除をするようになった」のように、健康的な生活を送れるようになったという声が寄せられた。

落ち着いて生活できる環境が無かったり、独力で暮らすことを強いられてきた若者にとっては、日常的な生活のロールモデルがないことが多く、生活リズムが崩れがちである。

そのような若者にとって、スタッフや同居者がいる生活の中で、社会的な生活に関する認識が更新され、自分がより良いと思える生活スタイルを選択できるようになったことは、本取り組みの価値として挙げることができると考えられる。

✔人間関係を築くためのコミュニケーション機会の提供

シェアハウスに同居する他者の存在については、「周りに同い年とか下の人がいて、これまでは幅広い年代の人と繋がるとつながるといふか知り合いといふかそういうことはなかったの、いい刺激」「対人関係で歳上に関わることができて、緊張はしてたけど、関わるとそれなりに楽しいし、いい刺激になっている」といった声がインタビューの中で示されている。若者にとって友人が増えたり、友人にならないまでも他者として、自分を振り返る機会となり、自分がどう行動するかを考えるきっかけになったりといった影響を与えていることがうかがわれる。

その一方で、特に若者が寝起きする部屋の共有ということについては、多くの利用者が課題として指摘している。シェアハウスの中でも、寝起きしたり、着替えをするようなプライベート性の高い行動をする場所については、他者と共有せず、個人の空間として確保していくことが必要であると考えられる。

✔もっとも身近な大人としての支援スタッフの存在

シェアハウスで生活する若者にとって、最も身近な大人であるサンカクシャの支援スタッフの存在や行動が若者のお手本となっているという回答が多く寄せられた。

特に支援スタッフに対して若者が感じている価値として、困ったことがあった場合に手を差し伸べてくれる、自分の知らない領域の情報や知識を提供してくれる、関係機関に同行してくれることなどが挙げられている。

生活支援を担当するスタッフは、当事者に最も近い場所で、長く時間をともにする存在であり、若者のちょっとした悩みでも相談しやすい支援者であると言える。

また、支援する立場でも、日常生活における接点を通じて雑談ベースで関わりを始めることができることから、相談することに抵抗感やためらいを感じている若者をサポートしやすいといったメリットがあると考えられる。

③ 生活支援を提供していく上で必要な機能

若者からの回答内容および、上記の考察を踏まえると、生活支援の中で当事者ニーズが高い活動・機能として以下のようなものが考えられる。

✔アクセシビリティ

若者が、直面している問題を解決する手段に関する情報収集を主にスマートフォンで行っていることから、支援に関する情報チャンネルとして、オンラインチャンネルを活用することは必須であると考えられる。また、オンライン上で一方的に情報を発信するだけでなく、SNSを活用して双方向のコミュニケーションに力を入れることでアウトリーチを行ったり、検索されやすさを高める工夫としてSEO（Search Engine Optimization、検索エンジン最適化）を行うなどの対応も重要であると考えられる。

✔居住空間と食事

シェアハウスを利用する若者は、支援に繋がるまで安定的な生活基盤が整っていないことが多い。安定的な生活基盤として、特に居住空間と食事は不可欠な要素である。基本的な生存欲求を満たすことができ初めて、将来の展望や安定的に働くといった、より高次の欲求を持つことができることは、心理学の分野で指摘されており、自立支援においては非常に重要な機能であると言える。

一方で、居住空間を準備できればどのようなものでもよい、ということではなく、他の若者と共有する空間と、個々の若者のプライベートな空間の双方を担保しておくことが、若者にとっての安心・安全な環境を提供する上で重要であることが調査の中で示されていることから、特に提供する空間については、利用者のニーズを踏まえた設計が重要であると考えられる。

✔スタッフの存在

シェアハウスの価値の部分でも言及しているが、若者に伴走するスタッフは、若者にとって非常に貴重な存在であることが示唆されている。生活支援を担当するスタッフは若者にとって支援者である以前に、最も身近な大人であり、様々な生活上のロールモデルである。したがって、支援者としての専門性のみならず、支援活動以外の面でも若者に影響を与える存在であることを自覚し、振舞えるスタッフが担当することが重要であると考えられる。

✔居住者の関係調整

若者の不満のほとんどは同居人との人間関係や生活スタイルの違いに起因するコンフリクトに集中している。本事業で運営したシェアハウスはこれまで相部屋での生活空間を提供していたことから不満が特に寄せられる結果となったが、今後、相部屋から個室型の運営にシフトしたとしても、同居する若者同士の衝突は何らかの形で表出すると考えられる。若者同士

の意見を聞き、利害を調整するための機能は生活支援においては必須の機能であると考えられる。

✔その他の社会資源に接続する際の同行支援

生活支援は当事者である若者に最も近い場所で、最も密度高く係わる取り組みであると言える。それゆえに、彼らの抱えている問題やニーズを高い解像度で把握することができる。一方で、生活支援につながってくる若者は、その過程で困難に直面しても支援リソースに繋がれなかった、いわば受援力が低い若者が多い。そのような状況で、生活支援を行う支援団体が同行支援を行うことの価値は大きいと言える。彼らの目線や立場を共有し、時に彼らの悩みやニーズを代弁し、時に社会の側からのメッセージを翻訳して若者に伝えてあげることが重要であると考えられる。

④ 生活支援を社会の中に広めていく上での課題

社会の中で孤立した若者にアプローチする生活支援は、支援の最終的なセーフティーネットとして位置づけられ得る活動である。本来であれば、生活支援に繋がる前の段階で、様々な社会資源に繋がり、孤立状態が深刻化する前に支えられることが望ましいが、そういった支援に繋がることが出来ず、生活支援を必要としている若者は少なくないと考えられる。したがって、今後社会の中で生活支援を提供する主体を増やし、一人でも多くの若者が支援に繋がる環境を構築していくことが重要であると考えられる。生活支援をより社会に浸透させていく上での課題として下記の点が挙げられる。

✔生活支援の重要性に関する情報発信および啓発

困難を抱えた若者に対する支援の必要性は、近年社会の中でも認識されてきているものの、生活支援の必要性にまでその認識は及んでいないのが実情である。社会の中に居場所を見出すことができない若者が、コロナ禍の影響もあり増加する中で、生活基盤を提供し、自立のための再出発の機会を提供することができる生活支援は、今後さらにニーズが高まっていくと考えられる。一部の民間事業者に限らず、社会全体で生活支援機能の拡充に取り組むことが重要である。

✔生活支援が提供する価値の整理

シェアハウスでの生活が半年を超え、比較的長期にわたって共同生活を送る若者は、徐々に日々の生活が安定していく。そのような状態になった若者にとって、生きていく上での「安心・安全」を提供していくシェアハウスの役割は相対的に小さくなる。

その一方で、自立した生活や、継続的に働き続けることが若者の課題としてより明確に認識されるようになってくるため、次のステップとして、若者の自立をサポートする機能やコンテンツを備えたシェアハウスに移行するといった取り組みが重要であると考えられる。既存の生活支援で提供されてきた役割を整理し、例えば、安全・安心を提供する居場所としての役割を持ったシェアハウスと自立のためのシェアハウスといったように、生活支援を再構成する試みが重要であると考えられる。このようにシェアハウスの位置づけを整理することで、最初に利用できるシェアハウスは家賃無料で半年間生活可能だが、ある程度生活が落ち着いて以降は、就労サポートを受けながら自立を目指す有料のシェアハウスへ転居といった運営も可能となり、

運営団体としても事業の見通しを立てやすくなるほか、トータル1年の支援として働きかける内容を計画することができるといったメリットがあると考えられる。

✔予算確保

若者に対する生活支援は非常に重要である一方、居住環境や食事の提供やスタッフの配置など、非常にコストがかかる取り組みでもある。支援は一過性の取り組みではなく、基本的には中長期の関わりが求められるため、必要な調達金額も大きくならざるを得ない。そのため、生活支援を行う団体にとっては、支援に必要な資金・資源を獲得することが重要である。また、そういった活動を行う団体に対する助成金や行政の事業委託などを通じて、支援性資金が流入しやすい環境を整備することが重要であると考えられる。

✔生活支援に至るまでの支援へのアクセシビリティ向上

困難に直面した若者に対して提供される様々な支援において、生活支援は特に深刻な孤立状態にある若者に対して行われる取り組みであるが、本来であれば生活支援に行きつく前に若者と繋がって支援していくことが重要である。その意味では、アンケートの中で回答者の約半数が利用していないと回答した行政サービスへのアクセシビリティ向上が課題であると考えられる。若者が相談しやすい場や環境づくり、利用しやすい制度にするなど、若者目線でのサービス提供が重要なのではないだろうか。